

令和6年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間 最終)

川尻中学校区 校番26 学校名 呉市立川尻小学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
確かな学力	基礎学力の定着を図る	○主体的な学びへの授業改善	○「児童の問いを生かした授業づくり」の実施は、児童の学びへの意欲を向上させている。 ●授業で学習内容のまとめを発表する児童が固定化していたり、まとめを行う場面は授業の最後だと捉えていたりするため、「自分の言葉で考えたことをまとめている」児童の割合が低い。 ●1年生の国語科の知識・技能と6年生の国語科の知識・技能、算数科の思考力・判断力・表現力が80%を下回っていた。単元の難しさがあつたり、部分点が配転されていない問題があつたりする。 ●学力の定着、向上に課題のある児童が多い。	・児童が主体的に問いを追究していく授業を目指して、授業改善を推進する。 ・「自分の言葉で考えたことをまとめている」児童を肯定的に評価する。 ・かがやきタイムでキュビナに取り組み、学力の定着を図る。 ・週に1回2、4年生の学力補充を行う。 ・国語の思考力・判断力・表現力に課題がある3、4、6学年は、文章読解プリント(20枚)に取り組みさせる。
		○家庭学習の習慣化	●中・高学年の自主学習提出率が達成できなかった。児童に家庭での学習習慣が身に付いていないことが考えられる。家庭の協力を得ることや、宿題未提出の児童へ一貫した指導を行う。	・教師が毎日、課題の提出状況や学習状況を確認する。 ・未提出の児童には学校でやり切らせることを、すべての学級で行う。
豊かな心	自己指導能力を育成する	○生活規律の定着(自律)	○高学年を中心に私語が減ってきている。 ●縦割り班掃除に慣れていない低学年の児童に、掃除中の私語が多い。	・高学年が手本となって、低学年に掃除の仕方を示すとともに、教職員は児童に声掛けや掃除の仕方等の指導を行う。
		○夢や目標の設定	○児童には具体的な目標や達成のための手立てや取組を考えさせた。教員は達成した児童にシールを貼り、「評価の見える化」をした。	・児童には具体的な目標設定や達成のための手立てや取組を考えさせる。教員は「評価の見える化」を行う。 ・児童が決めた目標だけでなく、毎月の生活目標のふり返りも加えて行っていく。
		○自尊感情の向上(貢献)	○活動の呼びかけや説明を児童が行い、児童の主体的な活動を重視した。 ●どのような活動がボランティアに該当するのか分かっていない児童が多い。	・児童の主体性を重んじて、児童会を中心にしたボランティア活動に取り組みさせる。 ・どのようなボランティア活動ができるのか、児童に紹介させる。
たくましい体	健康的な生活習慣の確立と体力の向上を図る	○体力の向上	○昨年度の課題であった上体起こし(筋力)で県平均を上回った学年が多い。 ●50m走(走力)、握力、反復横跳び(敏捷性)が県平均を下回っている。握力は、全学年で課題となっている。	・外遊びの奨励や個別指導等を通して体力の向上を促す。 ・握力を高めるために、朝の健康観察時に行う「ゲーパ一運動」や握力強化につながる日常的な取組を実施する。
		○食育の推進	○正しく食器を置く、あいさつをする、返却する食器にご飯粒等を残さない、は身に付いている。 ●正しい姿勢で食べる、正しく箸を使う、は身に付いていない。	・給食の時間に姿勢や箸の使い方の指導を行う。 ・第2学年の学級活動で食事のマナーの指導を行う。 ・給食委員会が全校児童に呼びかける。

業務改善	教職員が自らの意欲と能力を発揮できる教育環境の整備	○児童生徒と向き合う時間の確保	○教科指導の準備や処理、生徒指導対応など、児童と向き合う時間がもてていると感じている教職員が多い。	・引き続き、校務の精選や会議等の効率化を進めるとともに、労働環境の整備を進める。 ・チームで業務にあたることを推進する。
		○長時間勤務の削減	○教職員の97%が月の時間外勤務時間が45時間未満だった。教職員の積極的な取り組みが、成果をあげている。 ●業務の持ち越しや持ち帰りがある。	・業務の持ち越しや持ち帰りの削減に向けた取組をもつ。